

寄贈図書リスト

君も新しい星を見つけてみないか, 山岡 均, 四六判, 300 頁, 1,500 円+税, 実業之日本社
ランダの星, 鳴海 風, 四六判, 392 頁, 2,000 円+税, 新人物往来社

UT Physics シリーズ 1 「ものの大きさ—自然の階層・宇宙の階層」, 須藤 靖, A5 判, 192 頁, 2,400 円+税, 東京大学出版会

UT Physics シリーズ 2 「D ブレーン—超弦理論の高次元物体が描く世界像」, 橋本幸士, A5 判, 216 頁, 2,400 円+税, 東京大学出版会

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jim@geppou.asj.or.jp 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

9. (1) 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院理学系研究科物理学専攻
専攻長 内田慎一
(2) 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻
牧島一夫
e-mail: maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

10. 封筒に「人事応募」と朱書き, 書留で送付のこと。提出書類はお返しいたしません。

大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台専門研究職員 (国際連携室)

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教員

1. 講師 1 名
2. (1) 大学院理学系研究科物理学専攻
(2) 東京都文京区本郷 7-3-1
3. 宇宙物理学実験, とくに科学衛星を用いた X 線・ガンマ線観測。
4. 当該分野の牧島一夫教授と協力して研究・教育活動を推進していただく。
5. (1) 決定後できるだけ早い時期。
(2) なし, ただし着任後の一定時期に継続在籍に関する適格審査を行う。
6. 博士号取得者で, 科学衛星を用いた実験・観測的な研究に十分な経験を有する者。
7. (1) 研究歴と主たる研究成果 (A4 用紙 2 枚程度), (2) 研究計画と教育への抱負 (A4 用紙 2 枚程度), (3) 論文リスト (査読つき論文とそれ以外を区別), (4) 主要論文 3 編の別刷 (1 部ずつ, コピー可)。
8. 2006 年 11 月 30 日 (木)

1. 専門研究職員 (国際連携室) 1 名
2. (1) 国立天文台 国際連携室
(2) 東京都三鷹市
3. 天文学または関連する数理学の分野
4. 国立天文台では, 国際協定の締結, 国際研究集会の開催, 東アジアとの研究協力事業など国立天文台が主体的に実施する国際協力・国際連携を支援するため, 台長の下に「国際連携室」を設置する予定です。「国際連携室」は, シニアな研究スタッフ 1 名と事務職員数名により構成され (1) 国際研究プロジェクト支援活動, (2) 国際交流支援活動, (3) 外国人研究者・学生の受け入れ支援活動, (4) 渉外活動, 等を担当します。今回の専門研究職員公募では, 天文学・物理科学の専門知識を活かして積極的に国際支援業務に携わる若手の人材を求めます。大学共同利用機関としての国立天文台の役割を理解し, 内外の研究者等と協調して働ける十分な能力, とくに外国語 (英語) 力, と意欲を持つ方を希望します。なお, 研究活動の継続は歓迎しますが, このポジションは国際連携室業務専従であることを理解のう

え職務に従事していただきます。

5. (1) 採用決定後できるだけ速やかに
(2) 任期 1年 (最大5年, 年度末の評価の上再任)
6. 博士の学位又はそれに同等な能力を持つもの
7. (1) 履歴書, (2) 研究 (国際協力・共同研究活動等を含む) 歴, (3) 論文リストと主要論文の別刷 (応募書類は返却いたしませんのでコピーでも結構です), 国際協力活動等に関する資料 (もしあれば), (4) これまでの研究 (国際協力活動等を含む) 概要と国立天文台において国際研究支援活動に携わるにあたっての抱負, (5) 他薦の場合は推薦書2通, 自薦の場合は本人について意見を述べることでの方2名の氏名と連絡先 (住所, 電話番号, 電子メールアドレス).
8. 平成18年12月15日 (金) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 観山正見
(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台ハワイ観測所 関口和寛
Tel: +1-808-934-5905
e-mail: kaz@naoj.org
10. 封筒の表に「天文台専門研究職員 (国際連携室) 応募書類在中」と朱記し, 郵送の場合は簡易書留で送付すること。
11. 専門研究職員は, フルタイム (週40時間) の給与及び交通費が支給されます。応募書類は返却いたしませんので, あらかじめご了承下さい。

〈個人情報利用目的について〉

国立天文台公募に関連して提供された個人情報については, 選考の目的に限って利用し, 選考終了後は, 選考を通過した方の情報を除き, 全ての個人情報は責任を持って破棄いたします。

群馬県教育委員会観測普及研究員

1. 観測普及研究員 1名
2. 県立ぐんま天文台
3. 光学赤外線天文学
4. (1) 光学赤外装置による観測研究に関すること
(2) 観測機器の維持管理等に関すること
(3) 公共天文台の一般業務に関すること
(4) 教育普及事業に関すること
5. (1) 2007年4月1日
(2) 3年
6. 大学院修士課程修了又はそれと同等の学力を有する者

7. (1) 履歴書, (2) 研究業績の概要 (1,000字以内) 及びリスト, (3) 活動計画 (1,000字以内), (4) 主要論文別刷
8. 2006年12月18日 (月) 必着
9. (1) 〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1
群馬県教育委員会事務局生涯学習課
(2) 〒377-0702 群馬県吾妻郡高山村中山 6860-86 群馬県立ぐんま天文台
Tel: 0279-70-5300 Fax: 0279-70-5544
10. 封筒に「観測普及研究員応募書類在中」と朱書の上, 簡易書留で郵送して下さい。なお, 応募書類は原則として返却いたしません。

山口大学大学院理工学研究科 物理科学分野教員

1. 助手 1名
2. 大学院理工学研究科物理科学分野 (理学部物理・情報科学科)
3. 電波天文学
4. 共通教育, 及び専門教育の実験と演習 (情報分野の演習担当もあり得る)
5. (1) 2007年4月1日 (予定)
(2) 任用の期限は5年とする。(1回の再任可)
6. 博士の学位を有する方, 又は着任までに取得見込みの方。
当分野の電波天文グループにおいて, 他大学及び国立天文台と協力し, 韓国・中国と連携した東アジア地域の VLBI 観測的研究に取り組むとともに, 山口 32 m 電波望遠鏡を活用した新しい研究を開拓する意欲のある方。着任時に38歳以下が望ましい。
7. (1) 履歴書 (写真添付), (2) 研究業績リスト (原著論文, 総説, 著書などに分けて記載すること), (3) 主要研究論文別刷5編以内 (コピー可), (4) これまでの研究内容の概要 (A4判2,000字以内), (5) 着任後の研究計画と教育に対する抱負 (A4判2,000字以内), (6) 推薦状, 又は応募者について照会可能な2名の方の氏名と連絡先 (所属・職名・住所・電話/Fax番号・e-mailアドレスなど)
※書類選考後, 面接を行います
8. 2007年1月9日 (火) (必着)
9. 〒753-8512 山口市吉田 1677-1
山口大学大学院理工学研究科物理科学分野物理・情報科学専攻主任 原 純一郎
Tel: 083-933-5672
e-mail: jhara@yamaguchi-u.ac.jp
10. 封筒には「物理科学分野教員公募書類在中」と朱

書のうえ「簡易書留」で郵送のこと。なお、当分野のスタッフ及び研究内容につきましては、当分野のホームページをご覧ください。

(<http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/phy/index.html>)

独立行政法人海洋研究開発機構 地球シミュレータセンター研究員

1. 研究員 1名
2. シミュレーション高度化研究開発プログラム高度計算表現法研究グループ
3. プログラミング、計算機シミュレーション、データの可視化に意欲をもつ人材。
4. 先端的な可視化手法の研究と開発。
5. (1) 採用決定後なるべく早い時期
(2) 契約期間は1年度以内。更新あり。
6. 博士号を取得している者、博士号を取得見込みの者。
7. (1) 履歴書(写真貼付)一通、(2) これまでの研究概要、(3) 大規模シミュレーションを行なうにあたっての抱負(自由形式)、(4) 推薦書、2名の推薦者から各一通ずつ、(5) 論文別刷3本以内
8. 2006年12月15日(金)必着
9. 〒236-0001 神奈川県横浜市金沢区昭和町3173-25
海洋研究開発機構地球シミュレータセンター
研究推進室担当 杉浦・三村
Tel: 045-778-5757, 直通 FAX: 045-778-5490
e-mail: koubo-esc@jamstec.go.jp
10. 詳細は下記をご覧ください。
<http://www.es.jamstec.go.jp/esc/jp/recruiting/index.html>

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部 高エネルギー天文学研究系教授

1. 2006年2月(第99巻2号)
2. 石田 学
(首都大学東京大学院理工学研究科助教授)
3. 2006年10月1日

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部 高エネルギー天文学研究系助教授

1. 2006年2月(第99巻2号)
2. 国分紀秀(東京大学大学院理学系研究科助手)
3. 2006年12月1日

国立天文台理論研究部助教授

1. 2006年5月(第99巻5号)
2. 小久保英一郎
(国立天文台理論研究部主任研究員)
3. 2006年10月1日

国立天文台野辺山宇宙電波観測所上級研究員

1. 2006年5月(第99巻5号)
2. 大島 泰
(首都大学東京・日本学術振興会特別研究員)
3. 2006年11月1日

国立天文台スペース VLBI 推進室上級研究員

1. 2006年8月(第99巻8号)
2. 萩原喜昭
(国立天文台スペース VLBI 推進室研究員)
3. 2006年11月1日

研究会・集案案内

第5回「坂田・早川記念レクチャー」

坂田・早川記念レクチャー制度は、坂田昌一・早川幸男両教授の業績をたたえつつ、未来の発展につながるよう、次世代の優れた研究者を育成することを目的として設けられました。この趣旨に沿って、名古屋大学大学院理学研究科と名古屋市科学館の共催による記念講演会を開催しています。

今回は素粒子物理学の理論分野で画期的な業績を挙げられた西島和彦先生をお招きして、「ミクロの世界の不思議な法則—素粒子とは—」というテーマでお話しいただく予定です。西島先生は素粒子の分類に関して有名な西島・ゲルマン則を発見されストレンジネスという素粒子の自由度を導入されました。これは坂田模型を経てクォーク模型にいたり、フレーバーという今日の素粒子物理学の中心概念を構成しています。お話では先生の開拓されてきた素粒子物理学の歴史を振り返りつつ素粒子物理学の魅力を現代的視点で分かりやすく語っていただく予定です。奮ってご参加下さい。

日 時：平成 18 年 12 月 16 日（土）14:00～16:30

会 場：名古屋市科学館

講演題目：ミクロの世界の不思議な法則

—素粒子とは—

講演者：西島和彦（東京大学・京都大学名誉教授，学士院会員）

対 象：高校生・大学生および大人

定 員：300 名（申込制）

受講料：無料（ただし科学館入館には観覧料（高校生・大学生 200 円，大人 300 円）が必要で
す。）

申込方法：以下のどれかの方法でお申込ください。なお，申込多数の場合は抽選となります。

1) 講演会ホームページ

<http://www.eken.phys.nagoya-u.ac.jp/SakataHayakawa/>
からお申し込み。

2) 往復はがきに，住所，氏名，高校生・大学生・大人の区分，返信あて名を記入して，

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目 17-1
名古屋市科学館「坂田・早川記念レクチャー」
係まで郵送。

3) 高校等でまとまって参加される場合には団体申し込みも可能です。下記連絡先までご連絡ください。

申込締切：12 月 2 日（土）（申し込み多数の場合は抽選）

問合せ先：e-mail: sh-lecture@eken.phys.nagoya-u.ac.jp

メール以外では，講演内容に関しては，名古屋大学大学院理学研究科 E 研

Tel: 052-789-2862

山脇または杉本まで。

申込方法・会場等に関しては，

名古屋市科学館天文係

Tel: 052-201-4486

小林までお問い合わせください。

会務案内

日本天文学会 2006 年秋季年会報告

2006 年秋季年会は 9 月 19 日（火）から 21 日（木）の 3 日間，九州国際大学（福岡県北九州市）にて口頭会場 8，ポスター会場 6 を使って開催された。講演件数は口頭講演が 405 件，ポスター講演が 237 件あり，合計で 642 講演だった。これに加え，ポストデッドライン講演が 3 件あった。年会参加者は 850 名だった。会場に設置された機器の不調のため一部の行事では会場変更を余儀なくされたが，それに伴う大きな混乱もなく，開催地理事の浅田 正氏の他，九州国際大関係者各位の尽力で順調に行われた。企画セッションは以下の 1 件が開かれた。

「補償光学の新展開」

世話人：家 正則，高見英樹，早野 裕，美濃和陽典（国立天文台）

また，特別セッションは以下の 1 件が開かれた。

「日本学術会議とこれからの科学者・科学政策」

世話人：海部宣男（日本学術会議第三部部长），

佐藤勝彦，岡村定矩（東京大），

池内 了（総研大），

井上 一（JAXA 宇宙研）

この他，ポスター発表のみのジュニアセッションが開催された。

座長は次頁表の 48 名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す（敬称略）。

〈記者会見〉

秋季年会の前日，9 月 18 日（月）13:30 から，北九州市立児童文化科学館にて行われた。祖父江義明理事長より挨拶の後，以下のトピックスについての解説が行われた。7 社の報道機関の出席があった。

●国際天文学連合 (IAU) 総会での太陽系の惑星の定義の経緯と国内での対応について

発表者：海部宣男（日本学術会議第三部部长），

祖父江義明（日本天文学会理事長）

●研究発表

(1) オリオン星雲からの赤外線の違い

記者会見出席者：

神鳥 亮，田村元秀（国立天文台），

日下部展彦（総研大）

関連する講演番号：P09a

(2) 宇宙の激変を電波でにらむ那須の巨大なアンテナ群：発見された電波トランジェントは銀河系内天体か宇宙論的な遠方の天体か？

記者会見出席者：

	9月19日(火)		9月20日(水)		9月21日(木)	
	10:00-12:30	14:30-17:00	9:30-11:30	13:30-15:30	9:30-11:30	13:30-15:30
A	杉谷光司 (名古屋市大)	瀬田益道 (筑波大)	橘 省吾 (東京大)	中村文隆 (新潟大)	田中秀和 (北海道大)	竹内 拓 (神戸大)
B	小久保英一郎 (NAOJ)	家 正則 (NAOJ)	樽家篤史 (東京大)	吉田直紀 (名古屋大)	藤田 裕 (大阪大)	大橋隆哉 (首都大)
C	青木和光 (NAOJ)	竹田洋一 (NAOJ)	平下博之 (筑波大)	高野秀路 (NAOJ)	茂山俊和 (東京大)	長谷川 隆 (ぐんま天文台)
D	浅井 歩 (NAOJ)	草野完也 (JAMSTEC)	大西利和 (名古屋大)	岡 朋治 (東京大)	出口修至 (NAOJ)	釜谷秀幸 (京都大)
E	川口則幸 (NAOJ)	岡村定矩 (東京大)	粟木久光 (愛媛大)	郡司修一 (山形大)	國枝秀世 (名古屋大)	前田良知 (ISAS/JAXA)
F	山岡 均 (九州大)	固武 慶 (NAOJ)	野上大作 (京都大)	高橋真聡 (愛教大)	松元亮治 (千葉大)	福江 純 (大教大)
G	藤沢健太 (山口大)	鶴 剛 (京都大)	寺島雄一 (愛媛大)	児玉忠恭 (NAOJ)	柏川伸成 (NAOJ)	長島雅裕 (長崎大)
H	阪本成一 (NAOJ)	徂徠和夫 (北海道大)	泉浦秀行 (NAOJ)	柳澤顕史 (NAOJ)	川端弘治 (広島大)	本間希樹 (NAOJ)

大師堂経明 (早稲田大学)

関連する講演番号: U03b, S09b, S10b, J22b, J23b,
V01b, V23b, V84a, V83a

〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが、9月20日(水)15:30~16:30に、「天文学系の学部志望する大学入学者の現状」というテーマで行われた。司会は名古屋大学の杉山直さんをお願いした。理科教育の危機やゆとり教育の問題などが、各方面で話題になっている中で、天文学研究者や専門家を志望して、大学に入学してくる学生にはここ数年でどの様な変化があるのか、2つの典型的な大学を例に具体的な状況を明確にすることを目的に開かれた。東京大学の江里口良治さんには東京大学教養学部の学生のここ数年間の進学振り分けの際の志望状況や勉強時間などについて具体的な資料をもとに学生の様子をお話していただいた。大阪教育大学の福江純さんには、大阪教育大の現状と教育学部学生の志望状況の変化などについて、紹介していただいた。両者ともに全体的には学生の関心は基礎科学よりも実用科学に向かっているようであるが、天文学のみに限って言うと必ずしも志望者が減少している明確な傾向は見られないとのことであった。また、学力ややる気についても学習課程の変更にとまらぬ変化はあるものの、それほど大きな変化ではないのではないかということであった。これに対して、会場からは実用科学への関心が高くなっているのは世界的な傾向であるとか、深刻な状況の大学もあるのではないかなどコメントもあ

た。会場には立ち見が出て、200名を超える参加者があり、このテーマへの関心の高さが伺われた。

(山縣朋彦, 松下恭子)

〈公開講演会〉

講演会のタイトルは、「惑星のおたち—我々の太陽系と他の惑星系—」で、9月18日(月)14:00より北九州市立児童文化科学館(北九州市)で開催された。祖父江義明理事長(東京大学名誉教授)の挨拶の後に、まず渡部潤一氏(国立天文台助教授)の講演「太陽系の果てを探る—第十惑星はあるか?—」が行われた。惑星の定義が新たに必要になった経緯などが一般向けに非常に分かり易く説明された。休憩後には、田村元秀氏(国立天文台助教授)の講演「太陽系の外に惑星を探る—第2の地球は見つかるか?—」が行われた。自分で光らない太陽系外の惑星をどのように発見するか、また第2の地球の発見の可能性について、アンケートを交えながら説明がなされた。それぞれの講演終了後には多くの質問が出、聴衆の関心の高さが伺えた。8月の惑星の新たな定義がされた直後の、惑星をテーマにした学会主催の講演会だったためか、前日の台風通過と言う悪条件にもかかわらず、今回140名の入場者数であった。(田 光江)

〈通常総会〉

「通常総会報告」(716頁)を参照。

〈懇親会〉

九州国際大学から徒歩15分ほどの千草ホテルで、9月20日(水)18:30から2時間にわたって行われた。事前のメールによる申し込みと初日の年会受付での申

し込みを経て、325名の参加があった。祖父江理事長からの挨拶、九州国際大学竹内学長の歓迎の挨拶に続き、福岡教育大学の平井教授に乾杯の音頭を取っていただいた。玄界灘の魚介類や北九州の地元の名物料理などが並び、地酒や鹿児島島の焼酎の即売も行われた。

(浅田 正)

〈保育室〉

保育室は九州国際大学の修学支援室を使用した。6家族、子供7人の利用があった。保育者の派遣は大手の保育委託業者に依頼し、年会実行委員会側は保育室担当が対応した。初日の保育室の開始時に保育士が派遣されていなかったというトラブルがあったが、業者の迅速な対応によりその日の午後からは体制が整い、それからは特に問題はなかった。なお、これは保育会社側の全面的なミスであり、天文学会側の対応には問題はなかった。この間、正規の資格を持った人間が結果的に不在であった点は保護者にお詫びした。準備にあたっては九州国際大学の浅田 正氏ならび同大学修学支援室のスタッフの方々、学生スタッフの方にご協力いただいたことを感謝する。

(梅本智文)

〈企画セッション報告〉

『補償光学の新展開』

補償光学の原理、科学研究費補助金特別推進研究により開発中のレーザーガイド188素子補償光学系の概要と観測性能仕様を紹介し、来年度より始まる高解像観測機能を活かす観測テーマについてさまざまな視点からのアイデアを紹介してもらった。現有の36素子補償光学系による観測は明るいガイド星が利用できる銀河系内天体に限られてきたが、レーザーガイド星の開発により、遠方銀河の観測などでの期待が述べられた。また、次世代超大型望遠鏡計画に向け、可視光での補償光学や断層写真法による広視野化などの開発に関しても展望が議論された。

補償光学は天文学以外へのインパクトも大きく、本セッションでは関連する応用分野として眼科医療の分野での取り組みについても招待講演をお願いした。北里大学の魚里先生の講演は、天文学と共通の用語や概念を用いて医療現場での補償光学の重要性を説いたもので、約80名の参加者には大変好評な「目玉講演」となった。

(家 正則)

〈特別セッション報告〉

日本学術会議特別セッション『日本学術会議とこれからの科学者・科学政策』

年会C会場で19日17:00から19:00まで開催。会場がほぼ埋まる盛況。日本学術会議の新組織が1年かけて立ち上がってきたことを受け、日本の科学の状況、天文学分野での活動、学会との連携などを集中的

に議論する予定だった。その後8月開催のIAU総会における惑星の定義が大きな社会的関心を呼んだこともあり、学術会議と天文学会の協力のよいテーマなので、後半を惑星関連の議論に当てることとした。

祖父江理事長の挨拶の後、佐藤勝彦学術会議会員の司会により進行。

前半(学術会議の組織と活動):

○報告: 海部学術会議会員。210名の会員を基礎に2,000名の連携会員がそろい、分野委員会・分科会が発足する。物理学委員会の3分科会のうち「天文学・宇宙物理学分科会」は、3名の会員と14名の連携会員で組織され活動を始める。IAU分科会(16名)も平行して活動する。天文宇宙物理分野の長期計画の検討を中心課題とし、国際連携、また社会との連携も視野に置く。

○議論: 池内前会員から活動の連続性と機動性、学会とのつながり、月報などへの情報の重要性を指摘。基礎科学の大型計画、学術会議の社会における役割、メディアの重視、若手の育成、科学と平和などについて、会場で貴重な議論が交わされた。

後半(惑星の定義をめぐる):

○IAU総会報告: 海部IAU日本代表から総会決定の重要事項、惑星の定義をめぐる日本での今後の対応、佐藤会員からIAU新会員の推薦の重要性などについて、岡村・福島両氏から惑星の定義に関連するコメント。

○議論: 太陽系外惑星についても考えること、まだ残っている課題、国際科学者団体としてのIAUのふるまい、天文学会の果たすべき役割、教科書への対応状況、などについて活発な議論が交わされた。

(海部宣男)

〈ジュニアセッション〉

秋の年会なので、ジュニアセッションとしては、ポスター発表のみを募集した。ポスター発表のみのジュニアセッションとしては最多の6件のポスター発表があった。地元の学校からも2件の発表があり、実際に生徒がポスターの解説に来たものもあった。発表の内容は、小惑星のライトカーブの観測、エッジワース・カイパーベルトに関すること、惑星の色の観測、夜空の明るさの調査、銀河の回転速度の測定、相対論の解析のように多岐にわたった。時間をかけて努力したことが感じられるポスターが多かった。発表の内容は、次回の春季年会時のジュニアセッション予稿集に掲載する予定である。なお、地元の学校との対応等をしていただいた年会開催地理事の浅田 正氏に感謝したい。

(吉川 真)

(年会実行委員長: 百瀬宗武)

【理事会議事録】

日 時：2006年9月19日（火）12:00～13:50

場 所：九州国際大学 2号館1階 会議室

出席者：祖父江，黒田，花岡，杉山，北本，関井，

蜂巢，百瀬，田，馬場，富田，浅田

有効委任状提出者：井上，和田，成相

欠席者：なし

その他，東海大学の比田井氏，東條事務長が出席した。

議 長：祖父江義明

署名人：花岡庸一郎，杉山 直

報 告

1. 前回議事録の確認（資料1）

前回（2006年6月24日）の理事会議事録が報告され，原案通り承認された。

2. 開催中の年会について

百瀬理事より開催中の年会について，講演645件で順調に進行中，18日の記者会見では7社出席，保育室の担当保育士が業者側不手際で遅れて来たというトラブルがあった，との報告があった。また田理事・浅田理事より，18日の公開講演会は140名程度の参加との報告があった。

3. 講師派遣キャンペーン

田理事より講師派遣キャンペーンについて，現在宣伝を行っており，問い合わせは既に5件あり2件実施が決まっている，との報告がされた。

4. その他

蜂巢理事より，来年からのPASJ出版の委託先が三美印刷(株)に内定したとの報告があった。

議 題

1. 新入会員の承認（資料2）

資料に基づき新入会員の紹介があり，入会を承認した。合わせて退会者の報告があった。

2. 正会員の入会資格について（資料3）

花岡理事より，入会案内を改定して正会員の対象を明確にし，あわせて実情に合っていない文言を修正したい，との提案がされた。正会員（学生）の対象を，「原則として大学院生」とする修正を加えるほかは原案どおり改定することとなった。

3. 学会ロゴの作成（資料4）

北本理事より，学会100周年を機会として学会ロゴを作成することとなったことについて，2007秋の年会までに決定することを想定したスケジュールが提案された。会員からデザインを募集し，審査によって選ばれた最優秀作を原案として修正のうえ最終デザインとする。決定後は商標登録も行う予定で

ある。月報や tennet，年会等で募集のアナウンスを行う。賞金や受賞者の数などが議論となったが，作成手続きの方向は承認し，評議員会にも諮ることとなった。

4. 100周年記念年会など

花岡理事・田理事より2008年春に予定されている100周年記念年会にあわせて開催される公開講演会について，研究成果公開の科研費による補助を申請する予定であるのでそろそろテーマ等を決定したいとの提案があった。記念講演会となるため規模が大きくなることを想定すべきである，内容も天文学の広い範囲をカバーすることが考えられる，などの意見が出され，開催地の担当者と教育理事を中心に早急に検討を進めることとなった。

5. 太陽系の惑星の定義について（資料5），及び「太陽系天体の和名等に関する検討小委員会」について（資料7）

祖父江理事長より，IAUでの太陽系の惑星の定義の決定について会員に向けて談話を発表したこと，教育現場・出版等への影響が大きいため学術会議のもとに「検討小委員会」を組織して対応することとなったことが報告された。この「検討小委員会」へは天文学会推薦の委員数名を加える予定であるため，理事・評議員・関連分野の専門家それぞれを代表する候補を選定した。また，学会内においてこの問題について特に対外的な面での対応をする組織として，「検討小委員会」委員となる天文学会員（学会推薦以外も含む）をそのままメンバーとする学会内の懇談会を設けることとなり，その活動について学会として公式にバックアップをすることが承認された。懇談会は必要なら小委員会への昇格も検討する。

6. 天文学の成果を社会一般に伝え広めるためのワシントン宣言（資料6）

天文学の成果を社会一般に広めるための提言をまとめた「ワシントン宣言」がIAUによって採択され，天文学会もこれに対する支持を要請されていることについて議論を行った結果，支持する方向を承認し今後具体的手続きを確認することとなった。

7. その他

(1) 天文教育施設に対する指定管理者制度導入について

黒田副理事長より，公共施設を民間に委託し運営する指定管理者制度の導入が進んでいるが，この制度下では利潤追求が重視される・長期的展望が難しいといった点で博物館施設の性格とは相容れない，このため天文教育普及研究会では博物館

施設を指定からはずすよう声明を出しており、学会でも賛同してもらいたい、との提案があることについて説明があった。学会としても今後黒田副理事長を中心に具体的対応を検討していくこととなった。

(2) 次回年会について（席上資料配付）

次回春季年会の会場となる東海大学の比田井氏より、使用予定の教室まで含めた詳細な準備状況の紹介があった。

(3) 次回以降の日程

次回は2007年1月13日（土）に開催、次々回は春季年会中に開催する。

2006年10月10日

議長 祖父江義明 ㊟

署名人 花岡庸一郎 ㊟

署名人 杉山 直 ㊟

【評議員会議事録】

日時：2006年9月20日（水）12:30～13:30

場所：九州国際大学 2号館1階 会議室

出席者：家、池内、梅村、大橋、佐藤、谷口、観山、山本、井上、岡村、海部、郷田、柴田、須藤、中川、渡部 以上16名

有効委任状提出者：安東、小杉、永田、宮川 以上4名
欠席者：なし

他に理事会から祖父江理事長、黒田副理事長、花岡・杉山・北本・関井・百瀬理事及び東條事務長が出席した。

議事に先立ち議長及び署名人を選出した。

議長：谷口義明

署名人：佐藤勝彦、中川貴雄

報告

1. 前回議事録の確認（資料1）

前回（2006年7月8日）の評議員会議事録が報告され、原案通り承認された。

2. 開催中の年会について

百瀬理事より、開催中の年会について講演645件・参加者約800名で順調に進行中である、保育室の担当保育士が業者側不手際で遅れて来たというトラブルがあった、また18日の記者会見では7社出席、公開講演会は140名程度の参加、との報告があった。

3. 講師派遣キャンペーン

花岡理事より講師派遣キャンペーンについて、現在宣伝を行っており、問い合わせは既に5件あり2件実施が決まっている、との報告がされた。

4. その他

花岡理事より、内地留学奨学金選考委員会によって2007年度の受給者が東京学芸大学への留学を希望する有本淳一氏（塔南高校）に決定された旨の報告があった。

議題

1. 100周年記念年会など

花岡理事より2008年春に予定されている100周年記念年会についてそろそろ具体的内容を議論したい、特にあわせて開催される公開講演会について科研費による補助申請の関係でそろそろテーマ等を決定したく議論をお願いしたい、との提案があった。記念講演会として大きな規模を想定すべきである、時間枠も拡大できないか、いや多数の聴衆を集めるのは大変である、といった意見が出され、また内容についても、天文学の広い範囲をカバーしてはどうか、日本の天文学の発展や現在の高い水準を示すことができるようなものはどうか、といった議論があり、開催地の担当者と教育理事を中心に早急に検討を進めることとなった。

2. 正会員の入会資格について（資料2）

花岡理事より、入会案内を改定して正会員の対象を明確にし、あわせて実情に合っていない文言を修正したい、との提案がされ、理事会での決定どおり改定することとなった。

3. 学会ロゴの作成（資料3）

北本理事より、学会100周年を機会として学会ロゴを作成することとなったことについて、2007秋の年会までに決定することを想定したスケジュールが提案された。天文学会員から募集するとの原案であったが、議論の結果会員に限らず広く募集し天文学会の存在自体をアピールする機会としてはどうか、ということになった。また、最優秀賞以外に優秀賞を設けることについて、表彰数が多いことで多くの応募を喚起できるのであったほうがよい、優秀賞も最終デザインの参考とできるのでは、その場合著作権に注意すべき、などの意見が出された。審査についても、デザインを公表して会員による投票を行ってはどうかとの発言もあった。

4. 太陽系の惑星の定義について（資料4）、及び「太陽系天体の和名等に関する検討小委員会」について（資料6）

祖父江理事長より、学術会議のもとに「検討小委員会」を組織するので天文学会からそのメンバーを推薦すること、この問題について特に対外的な面での対応をする学会内の組織として「検討小委員会」委員となる天文学会員をそのままメンバーとする学会内の懇談会を設け、その活動については学会とし

て公式にバックアップをすること、が報告され、承認された。また、海部評議員より、「検討小委員会」は20名程度で構成し、太陽系天体の新しい分類の和名や従来の分類名の意味を明確にするのが目的である、1年以内に結論を出して任務を終える予定である、との報告があった。またこの問題に関連して、次回年会で冥王星シンポジウムを行ってはどうか、との提案も出された。

5. 天文学の成果を社会一般に伝え広めるためのワシントン宣言(資料6)

天文学の成果を社会一般に広めるための提言をまとめた「ワシントン宣言」がIAUによって採択され、天文学会もこれに対する支持を要請されていること、理事会においても支持の方向となったこと、が報告され、議論の結果支持を承認し、今後具体的手続きに進むこととなった。

6. その他

(1) 天文教育施設に対する指定管理者制度導入について

黒田副理事長より、地方自治体の公共施設を民間に委託し運営する指定管理者制度の導入が進んでいるが、この制度下では利潤追求が重視され専門性がおろそかになる・長期的展望が難しいといった点で博物館施設にはふさわしいとはいえない制度である、このため天文教育普及研究会では博物館施設を指定からははずすよう声明を出しており、天文学会など関連団体の賛同も得てさまざまな働きかけをおこなっていききたい、との提案があることについて説明があった。既に公共天文施設の25%が移行しているということであるがそこで具体的にどういう問題がおきているのか、天文に限らず科学全般にかかわるのもっと大きな動きとなるよう多方面に働きかけてはどうか、などの意見が出された。学会としても今後黒田副理事長を中心に具体的対応を検討していくこととなった。

(2) ポスドク支援について

須藤評議員より、物理学会でのポスドクの就職を支援する事業について紹介がされた。ポスドクが就職できるよう支援を行う場合はまずポスドクの現状が正しく把握されている必要があり、たとえば天文分野においてどのような状況なのかを示すデータが必要である、東大などでは独自にポスドクに対する就職などコンサルティングを行っているが、もっと企業と連携して拡大してはどうか、との発言があった。

(3) 次回以降の日程

次回は2007年1月27日(土)に開催、次々回は春季年會中に開催する。

2006年10月10日

議長 谷口義明 ㊟
署名人 佐藤勝彦 ㊟
署名人 中川貴雄 ㊟

【2006年度秋季総会議事録】

日時: 2006年9月20日(水) 17:00~18:10

場所: 九州国際大学 2号館2階(C会場)

議事に先立ち出席者の確認がなされた。事前投票総数(会場参加者との重複は除く)は406名、会場参加は138名である。出席者のうちで事前投票をしたものは、事前投票の方を無効とした。有効出席者総数は544名で、定足数(正会員総数1,703名の5分の1=341名)を満たしていることを確認した。

次に署名人として富阪幸治氏、徂徠和夫氏が選出された。

議事の経過および結果

1. 花岡理事が資料に基づき、2007~2008年度新役員(理事・監事)候補案の説明を行った(第1号議案)。
2. 花岡理事が資料に基づき、2007~2008年度新選挙管理委員候補案の説明を行った(第2号議案)。
3. 花岡理事が資料に基づき、2007年度事業計画案の説明を行った(第3号議案)後、質疑応答が行われた。
4. 北本理事が資料に基づき2007年度収支予算案の説明を行った(第4号議案)後、質疑応答が行われた。
5. 第1号議案、第2号議案、第3号議案、第4号議案は各々賛成多数で承認された。

報告事項等

1. 100年史編纂委員の増員
花岡理事が、谷口義明氏(愛媛大学)を100年史編纂委員に加え、全体で12名としたことについて報告を行った。
2. 男女共同参画委員会に関する内規及び委員
花岡理事が、新しい小委員会として男女共同参画委員会を組織したことについて報告を行った。
3. 2007~2008年度各種委員会委員
花岡理事が、2007~2008年度を任期とする各種委員会の委員について報告を行った。
4. Asian-Pacific Journal について
祖父江理事長から、新しい天文学術雑誌として刊行が計画されているAsian-Pacific Journalについて、会員へのアンケートの結果及び天文学会としての対応について報告がされた。今後PASJを発展さ

せる議論を行っていく、会員にも積極的な協力を求めたい、との発言があった。

5. 創立 100 周年記念出版の進捗状況について

創立 100 周年記念出版事業編集委員会の岡村委員長より、記念出版の進捗状況について報告がされた。原稿についてはかなりの集まり具合ではあるものの、予定通りの出版にはまだ多大な努力を要する状況である、是非協力をお願いしたい、との発言があった。

6. その他

(1) 宇宙科学プログラムの将来計画検討について

JAXA 宇宙科学研究本部の井上本部長より、JAXA を中心とした宇宙科学プログラムの将来計画検討の状況について説明があり、天文学会員にも議論への積極的な参加をお願いする、との発言があった。

(2) 学術会議からの報告（太陽系の惑星の定義に関する報告も含む）

海部評議員より学術会議および天文関連の分科会・IAU・世界天文年等についての状況について報告があり、また太陽系の惑星定義について日本国内での対応のため太陽系天体の和名等に関する小委員会を組織することが報告され、合わせて祖父江理事長より学会内でも対応する懇談会を組織する予定であることが報告された。

(3) 天文教育普及研究会より

天文教育普及研究会の松村会長より、新たな「惑星の定義」を教育現場において積極的に活用していくよう要望すること、天文教育施設に対する指定管理者制度導入の問題点について声明を出したこと、について発言があった。

2006 年 10 月 10 日

議長 祖父江義明 @
署名人 富阪 幸治 @
署名人 徂徠 和夫 @

2006 年度の災害に関連した特別措置のお知らせ

2006 年 9 月 29 日

日本天文学会理事長 祖父江義明

先頃の台風 13 号により被災された皆様をはじめ、本年 1 月の大雪、6 月の長雨土砂災害、7 月の梅雨前線に伴う大雨に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

日本天文学会では、被災された会員の方々に、以下の措置を取らせて戴くことになっております。

「日本天文学会に届け出の住居または勤務地が 2006

年度中の災害による災害救助法適用地域に該当する会員のうち、希望する方」は 2007 年度会費を免除することとし、会費をご納入戴かなくても、2007 年度一年間は会員としてお取り扱い致します。

被災によりこの措置の適用を希望される方は、天文学会事務所までお申し出下さい。郵送・電話・ファックス・E-mail の別を問いません。また、特に締め切りは設けませんが、出来れば早めの手続きをお願い致します。ご参考までに、本年度の災害救助法適用地域の一覧を掲げます。2006 年中に、他の災害により災害救助法の適用を受けた地域で被災された会員の方々も、今回の措置の適用をご希望の場合には是非お申し出下さい。また、今後も不幸にして会員が被災された場合には同様の措置を取りますので、この機会にご銘記下さい。

●平成 18 年 9 月 17 日からの台風 13 号による被害地域

- 宮崎県
延岡市

●平成 18 年 7 月 19 日からの梅雨前線に伴う大雨による被害地域

- 長野県
諏訪市、諏訪郡下諏訪町、岡谷市
- 鹿児島県
大口市、出水市、薩摩川内市、薩摩郡さつま町、伊佐郡菱刈町、始良郡湧水町
- 宮崎県
えびの市

●平成 18 年 6 月 15 日からの長雨土砂災害による被害地域

- 沖縄県
那覇市、中頭郡中城村

●平成 18 年 1 月 6 日からの大雪による被害地域

- 新潟県
十日町市、妙高市、南魚沼市、南魚沼郡湯沢町、中魚沼郡津南町、魚沼市、上越市、北魚沼郡川口町、長岡市、柏崎市、小千谷市
- 長野県
飯山市、北安曇郡白馬村、北安曇郡小谷村、下高井郡木島平村、下高井郡野沢温泉村、上水内郡信濃町、下水内郡栄村、下高井郡山ノ内町

社団法人 日本天文学会

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内

Tel: 0422-31-1359 Fax: 0422-31-5487

e-mail: jimuj@asj.or.jp

URL: <http://www.asj.or.jp/>

星空市場

『質問』

先だっの IAU 総会で可決された惑星の定義について、5A の (C) に「その軌道の周囲から他の天体をきれいになくしている天体」とありますが、木星と軌道を同一にするトロヤ群小惑星や、火星の軌道後方にいる小惑星ユーレカ (5261) についてはどのように討論されたのでしょうか。もし、これら小天体は別視するのならば、“きれいになくす”という表現に抵抗を感じます。「ただし重力平衡状態でないものは除く」などの註がいてはと考えます。

加藤公子 (神奈川県在住)

『回答』

仰るとおり、今回採択された定義案については、天体力学の専門家からも、一部の表現は曖昧で不十分ではないか、とのご指摘があるのは事実です。総会の採択前にも同様の質問がありました。解釈としては「木星のトロヤ群や、冥王星といった天体の運動は、それぞれ木星、海王星によって完全に支配されている」ために、“きれいになくす”という文言の範囲内で理解してもらおう、ということです。トロヤ群は木星と周期

比が 1:1 にあり、また冥王星も海王星と周期比が 3:2 となっていて、共鳴状態にあります。これらは、軌道上で他の天体をきれいに無くしてしまった結果、残らざるを得なかったものであり、逆に言えば、きれいになくした証拠であるとも言えるでしょう。ユーレカや地球に近づく小惑星などのような天体は、ごく一時的に地球や火星のそばにいただけなので問題視しません。また、ご指摘のように、これらの小天体は、もともと問題とする天体のサイズに比較して、あくまで小天体というレベルであるため、(つまり同じようなサイズの天体ではないという意味で) 問題にしていけない、という暗黙の前提があるのは事実です。ご指摘のような注釈を入れることも検討すべきであったとは思いますが、もともと軌道論的な視点の定義を厳密に追求していくと、他にもたとえば、具体的に軌道のどの領域までを考えるか、ヒル半径の何倍までを定義するのか、あるいは歪んだ楕円軌道の天体が近づくような場合をどのように表現して盛り込むか、など種々の明示すべき条件が増えてしまい、どんどん深みにはまってしまう危険があります。そのため、どこかの段階で抽象的表現を採用する必要があったと考えます。

渡部潤一 (国立天文台天文情報センター)

天文月報オンラインの ID とパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード vol98 の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。

和田桂一(編集長), 今西昌俊, 亀野誠二, 齋藤正雄, 寺田幸功, 濤崎智佳, 戸谷友則, 洞口俊博, 増田 智, 矢野太平
 平成 18 年 11 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
 定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2006 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)